

東京都立雪谷高等学校第七十六回 入学式式辞

今日の良き日に、令和五年度東京都立雪谷高等学校全日課程第七十六回入学式を挙げるにあたり、本校同窓会並びにPTA 役員の皆様を始め、多数の保護者の皆様をお迎えして実施できますこと、大変うれしく思います。

ただいま入学を許可いたしました二百七十八名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

皆さんは、中学時代のほぼ全てをコロナ渦の厳しい状況の中で過ごしてきました。様々な制限や我慢を強いられることも多々あったはずですが、それぞれが工夫し前向きに取り組み、目標を見失うことなく日々努力を重ねた結果、見事本校の入学選抜試験に合格して、本日東京都立雪谷高等学校「チーム雪谷」の一員となりました。本校教職員及び在校生一同は、皆さんの頑張りに敬意を表するとともに、ご入学を心より歓迎いたします。

本校は大正二年に設立され、地域の皆様に支えられながら、今年は百十周年を迎える都立高校でも有数の歴史と伝統を誇る学校です。今までの歴史の重みと伝統を受け継ぎながら、「文武両立」を合言葉に、本校の教育目標である、「学問を愛し、知性を高める」「体力の向上に努め、健全な心身を養う」「人権を尊重し協調及び互助の精神を養う」「地域理解を深め、国際的な視野に立って社会に貢献する人間の育成を図る」を具現化することで、知・徳・体の調和が取れた社会に貢献できる人材の育成を目指しています。

さて現代は、今なお続くコロナ禍だけにとどまらず、地球温暖化や多発する災害、貧困、差別、そしてウクライナにおける惨劇など、誰もが想像できない時代となっています。このような予測困難で正解のない時代を生き抜いていくためには、皆さん、どのような力が必要だと思いますか。それは、自分の頭で考えるという事です。人は不安な状況に陥ると、目の前で起こっている事象や権威ある人の話に囚われたり、 ∞ Z ∞ 上にはびこる情報や自分にとって都合の良い情報などに惑わされたりしまいがちです。ですから皆さんは、見聞きしたことに対して、「え、それって本当なの」と疑問に思い、実際に調べて正しく読み解く力を身に付ける必要があります。相手の主張に耳を傾け、時には自分とは反対の意見を探し、自分の意見と対比させてまた考える。その繰り返し、物事を主体的に考え行動しようとする姿勢を育みます。

そこで次の質問です。本校では社会に貢献する人材の育成を掲げていますが、具体的に何を求めているか分かりますか。社会貢献というとボランティア活動を思い浮かべる方が多いと思いますが、もっと大きな視点でいうと、あなたはこの社会とどのように関わっていくつもりですか、と問われているのです。そのためにはまず自分自身の特性や強み

を良く理解しておく必要があります。次に、それを生かせる自分なりの関わり方を考えればよいのです。何より一番いけないことは「無関心であること」、「他人の心の痛みに鈍感であること」です。

皆さんは、いずれ高校を卒業して社会に出られる際は、リーダーシップを発揮して活躍できる人たちで、こういう不安定な時代だからこそ夢や目標をもって行動することが大切です。ですから、どうか自ら考え、行動できるようになってください。そして、自分はこうありたいと、こういう目標があってそれを実現したいと、本心から念じて取り組んでください。そうすることで、皆さんの夢や希望がかなうのです。夢に向かって懸命に努力しようとする皆さんを、我々教職員は勿論、在校生そして同窓会をも含む全てが「チーム雪谷」としてあなた方を応援します。出発点は、皆さん一人一人の今の自分にあります。さあ、一步一步と前進して行きましょう。

最後になりましたが、本日御臨席いただきました保護者の皆様、お子さまのご入学、誠におめでとうございます。晴れて高校に入学されましたお子さまの姿をご覧になり、感慨もひとしおかと存じます。これまでの皆様のお子様への愛情とご苦勞に心から敬意を表します。私たち教職員は、皆様の期待に応えるべく最大限の努力をしてまいります。しかしながら、高校生という時は多感な時期であり、苦しみや挫折を味わう経験も多々あるかと思えます。それを乗り越えるためには、本人の努力とともに家庭と学校との密接な連携がとても大切です。ぜひ、保護者の皆様の学校へのご理解とご協力をよろしく願います。

それでは新入生の皆さん、皆さんが勉強や学校行事、部活動等を通して本日新しく出会った仲間と共に、お互い励ましあいながら大きく成長し、豊かな学校生活を送ることを願いつつ式辞といたします。

素晴らしき青春時代を

令和5年4月7日

東京都立雪谷高等学校長 豊岡 耕一郎